

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・北海道の景気回復は遅れているが、前年割れという言葉は聞かなくなってきた。今月は寒さが厳しく、正月は大雪に見舞われたことで苦戦したが、徐々に持ち直してきており、売上は前年をわずかに上回った。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・売れていない営業担当者も今月に関しては売れているようである。全体的に需要が上向いてきており、3か月前と比べると明らかに良くなっている。ただ、現在の状態は長続きしない。
	やや良く なっている	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・来客数は前年比101%と微増ではあるものの、さらに拡大傾向にある。セール開始時期が前年よりも遅くなったものの、セールの売上は前年比102%で推移している。初売りの時点ではボリュームゾーンが苦戦していたが、中旬には定価品、セール品ともに前年を上回った。特選品、宝飾品が前年比を10%以上上回っていることもあり、全体では前年比105%となっており、近年最大の伸びとなっている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・客単価の上昇傾向は変わらないが、年初からの大雪の影響で客足の伸びは鈍い。来店客の購買率は高めを維持しているものの、来客数の減少が足を引っ張っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・年末以降、たばこの売上が減少していることもあり、客単価はまだ前年並みには達していないが、来客数は回復傾向にある。また、安い商品が動くという傾向も依然として強いが、話題性の高い商品であれば売れるという傾向もみられるようになってきた。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・新年を迎えて初売りや新春きもの展示会では高額な商品も動いた。ただ、消費者の購買心理は、質の良い商品であってもより安い商品、信用信頼のおける商品に向いている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の影響もあり、微増ながらも、テレビ、大型冷蔵庫、ドラム式洗濯機、パソコン等の大型家電の売上、販売量がともに増えてきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要がみられる。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新車の受注量が好調に推移してきている。新型車効果と消費税増税前の駆け込み需要が影響している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人向けの航空券が前年を上回る販売量となっており、景気の回復にともない、ビジネス旅客の動きが良くなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・1月は雪の日が多く、前年よりタクシーの売上が良かった。夜の人出も多くなっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・競合他社に遅れを取っていた通信設備の強化を図ったところ、前年よりも客が自社を選ぶようになった。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・1月26日までの利用客数が前年比109.1%となっている。今年度の4月から毎月前年を上回り続けており、好調の流れが継続していることから、やや良くなっている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で販売量が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月に入って分譲マンションのモデルルームの来客数が増加している。消費税増税前の駆け込み需要が活発化しており、3月末完成の物件の販売が好調である。
変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年になく雪が多いため、初売り以降、来客数が減っている。特に地方からの来客が落ち込んでいる。
		商店街（代表者）	単価の動き	・例年よりも高額商品の販売が落ちている。後半に入り、春物の単品が動いているものの、バーゲン時期ということもあり、客単価があまり伸びていない。売上は前年よりも漸減している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子としては、消費税が上がるということもあり、買物を控えている状況にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・年明け以降、商店街を訪れる客数が伸びていない。当商店街における主要購買層は比較的高齢の女性が多いが、路面凍結や厳しい寒さの影響か、周辺地域からの来街者、バスによる来街者とも減少している。

一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・建設と自動車販売の良い話を聞く。当店の1月の売上は前年比117.5%、前々年比125.9%となっている。非常に良い状況に見えるが、東日本大震災の影響でここ2年が悪かっただけであり、金額的にはそれほど良い状況ではない。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・初売りは前年比101%とほぼ前年並みであった。冬休み期間中のイベントも見込みどおりの入場者があり、来客数は前年と大きく変わっていない。セールの売上は婦人服を中心に、前年比101%と順調に推移している。前年よりも雪が少なく、出足が好調であった。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・1月に入り、来客数が横ばいで推移しており、購買客数も横ばい状態となっている。
百貨店（役員）	お客様の様子	・東京などの大都市では高額品が売れているようであるが、当店では時計等の高額品の売上が前年を大きく下回っている。衣料品等の身の回り品は前年並みで推移している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・初売りは前年を上回ったが、その後は落ち込みがみられる。ただ、消費税増税の影響が出ているわけではない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年の11月から早朝の来客数が前年並みに回復している。工事現場等の現場作業員の来店もみられる。その一方で、夜間の来客数が大きく減少しており、全体ではマイナスに転じている。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・これといった問題もみられないため、全体としては変わらない。
家電量販店（店員）	単価の動き	・新年から来客数が好調に推移しており、全体的によく売れている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税を控えていることもあり、30代の家族層の動きが目立っている。
自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・カー用品業界では、車検やタイヤなどの高額商品について、3月の駆け込み需要を待っている状態である。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の高止まりにより、客の節約志向が強くなっており、販売量が減少している。
高級レストラン（経営者）	単価の動き	・消費税増税を前にして、一部の企業等では駆け込み需要が増加しているが、当店の状況はあまり変わらない。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・この時期は平日と週末との差が大きい。天候に左右されることもあるが、平日は週末の半分以下の売上である。一方、外国人客の好調さは今月も目立っている。客単価は横ばいであるものの、全体の売上では前年比108%となっている。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・外国人観光客の需要は引き続き高い。一方、国内客は団体客を中心に需要はあるものの、大型貸切バスの不足と借り上げ単価高騰のため、大きく減少している。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・来客数、客単価の変動が大きいことが気掛かりである。また、グループ旅行が減少している。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4月からの消費税増税を懸念しているのか、3月の家族旅行の申込があまり増えていない。
タクシー運転手	販売量の動き	・2～3か月前の状況と比較して、来客数、販売量ともそれほど変わっていない。まだまだ上昇カーブを描くような状況にはなっていない。
タクシー運転手	販売量の動き	・年始あいさつや新年会などで、タクシーの売上は3か月前より約9%多かったものの、前年と比較すると約1.4%の減少であり、景気はあまり変わっていない。
美容室（経営者）	お客様の様子	・景気が良くなってきたという報道や雰囲気のほか、実生活ではガソリン、灯油などの値上げラッシュで景気回復の実感がともなっていないことに客が戸惑いを覚えており、消費意欲が衰えてきている。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・厳冬期の真っ只中であり、例年と同様に物流がとどこおっている。

	設計事務所（所長）	それ以外	・建築業界は消費税増税前の駆け込み需要も終わり、動きが落ち着いてきている。例年、この季節は物件の動きが少ないが、今年は一層静かになってきている。
やや悪くなっている	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・例年1月には新年会等の需要があり、それなりに商品が動くことになるが、今年はそうした動きが少ない。飲食店も例年と比べてかなり悪い状況であり、売上の厳しい状況が続いている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・正月、年始商戦が思ったよりも不振であり、正月のにぎやかさもあまりなかった。来客数が前年比93%、売上が前年比94%と低迷している。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・降雪量が前年より多いことや、商品価格がややインフレに動いていることが要因となつてか、年が明けてから急に客の動きが悪くなっており、来客数が前年から4%減少している。商品単価が前年よりも5%前後上昇し、客単価が前年比105%となっていることで、何とか前年並みの売上を確保できているが、2～3か月前と比べてやや良くない状況にある。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・買上単価や高級品の動きが鈍くなっている。
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の動きがさほどみられず、数字にも表れていない状況である。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・顧客の高齢化のせいかわ寒期の客の動きが悪い。
	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・全体的にはあまり変わらないが、常連客の客単価が低下していたり、月曜から水曜にかけての来客数が減っていたりなど、細かくみると、買い控えの動きが始まっているようだ。他の高級店で料理の単価を落としたり、出入りしているタクシー運転手が厳しいとこぼすなど、周囲の接客業からも客の買い控えの様子がうかがえる。
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・国内からの観光客、ビジネス客ともに低価格競争の様相を呈している。外国人観光客も、1月末からの旧正月の観光需要が期待されたが、低調である。需要を喚起するようなイベント、大会も少ない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・年末年始の注文数は前年比でマイナスであった。その後も、大きくばん回できるような問い合わせがみられない。
	パチンコ店（役員）	お客様の様子	・消費税増税を前にして、高額商品の購入が落ち着いてきている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・年末の需要期を過ぎたため、やや悪くなっている。
悪くなっている			
企業動向関連 (北海道)	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が本格的に表れている。一般家庭用家具、コントラクト用家具ともに活況である。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・4月からの消費税増税対策として、ビート糖、段ボール用紙の本州向け輸送が大幅に増加している。この動きは3月まで継続する。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が明らかに上昇傾向となっている。また、原材料価格、工事単価等の上昇や人員不足も顕在化してきた。
	金融業（企画担当）	それ以外	・建設業界は活況を呈しているが人手や重機が不足しており、工期の遅れや受注の見合わせがみられる。原材料価格の上昇もあり、利益率は低下している。外国人観光客の増加で、土産店、菓子メーカーなどの観光関連業種は堅調である。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	取引先の様子	・取引先の鉄工関連業者は一律に仕事量が豊富であり、期限内に仕事をこなすため、残業や外注で対応せざるを得ない状況にある。また、仕事量に応じた必要な設備投資も計画している。
変わらない	食料品製造業（経営者）	それ以外	・消費税増税後の需要動向がいまだ不透明なため、様子見をしている状況にある。
	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と変わらない状況にある。
	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年よりも受注実績が増加しているが、3か月前と比べるとあまり変化はみられない。

	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建築工事の発注では相変わらず労務者不足が続いている。大型公共工事の発注では公募しても参加者がそろわず、中型民間工事では型枠工の確保の目途がついてから見積に依る状況が続いている。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・年が明けてから円相場が比較的安定して推移していることから、客先からの受注についても荷動きに大きな停滞感は見られない。
	司法書士	取引先の様子	・不動産の取引や、建築関連の各業種の受注が特に増加したという状況もなく、回復傾向は見当たらない。
	司法書士	取引先の様子	・冬期間は不動産取引が減少し、契約件数が少なくなる。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・一定の消費税増税前の駆け込み受注がみられるが、増税前の納期に間に合わない商談が散見されており、前回の増税時のような盛り上がりが見られない。
	やや悪くなっている		
	悪くなっている	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き ・企業における中途採用の求人に加えて、派遣のニーズが確実に増えている。当社の紹介部門においては、ここ数か月、企業から内定を得た後に内定を断るケースが続いている。理由を確認すると、他に良い求人があったとのことである。以前は内定を断るケースはほとんどなかったが、景気の回復にともなって、市場に魅力的な求人が増えてきている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	それ以外 ・正社員の求人意欲が高くなっている。人口減少と景気回復が相まって、売手市場に拍車がかかっている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き ・求人数が堅調に推移しており、しばらくは募集件数の多い状況が続く。業種による大きな隔たりもなく、全体的に募集意欲が高くなっている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き ・前年までと同様の傾向にあり、貨物運送や建設、介護福祉業界の求人ニーズが高い。また、コールセンター、派遣、業務請負などの間接雇用業種の求人が伸びている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人数は前年を12.7%上回り、47か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年を19.6%上回り、47か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・求人数は業種間で差がみられるものの、全体としては増加傾向が続いている。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き ・新規求職者数の減少傾向が続くなかで、就職件数が4か月連続で増加している。人手不足感のある企業からの採用意欲が高まっていることが要因とみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	雇用形態の様子 ・有効求人倍率が引き続き前年を上回っている。企業の倒産件数も減っていることから、景気は若干上向きにある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き ・求職者の求める求人が少なく、人気のない求人が充足できずに残っている。結果的に雇用数がなかなか増加していない状況にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き ・募集広告の売上が前年比109%となっており、引き続き求人は前年を上回っている。例年、この時期は医療系の募集が多い傾向にあるが、特に今年は前年比5割増と、求人広告の増加をけん引した。また、小売、流通、派遣、飲食も前年比3割増に達した。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子 ・12月の新規求人数は前年から8.2%の増加となり、新規求職者数は前年から1.4%の減少となった。月間有効求人倍率は0.86倍となり、前年の0.74倍を0.12ポイント上回った。新規求人数のうち正社員求人の占める割合は46.8%と高くなっているものの、求職者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	やや悪くなっている	-	-
	悪くなっている	-	-